

高知県感染症発生動向調査（週報）

2017年 第6週（2月6日～2月12日）

★お知らせ

○インフルエンザに気を付けて！

高知県全域で警報値である30.0を超えています。

定点医療機関当たりの報告数は第5週の50.60から第6週では41.63と減少してはいますが、中央東と安芸で増加し、県全域と中央西、高知市、中央東、須崎で警報値を超え、幡多と安芸でも注意報値を超えていることから引き続き注意が必要です。

迅速検査ではインフルエンザA型が99.2%、B型0.8%と検出割合に大きな変化はありません。

病原体検出情報では第6週に搬入された検体で須崎からInfluenza virus A H3 NTが計3件、Influenza virus A H1pdm09が1件検出されています。

学校等における集団発生の報告でも休校や学年、学級閉鎖の報告が続いています。

全国では定点医療機関当たりの報告数が第4週の39.41から第5週では38.14と横ばいで推移し、引き続き警報値を超えています。

国内のインフルエンザウイルスの検出状況は、直近の5週間（2017年第1～5週）ではAH3亜型の検出割合が最も多く94.2%、次いでB（ビクトリア系統）が2.62%、AH1pdm09が1.74%、B（山形系統）0.87%、B（系統不明）が0.58%の順でした。

インフルエンザの流行期に入っていますので、外出後の手洗いなどの感染予防を心がけましょう。

症状がある方は咳エチケットを心がけ、早めに医療機関を受診しましょう。また、適度な湿度の保持、十分な休養とバランスのとれた栄養摂取、人ごみを避けるなどの対策も感染予防には有効です。

高知県の保健所別の定点当たり報告数と警報・注意報レベル状況（2017年第6週）

	今週		1週前		2週前		3週前		4週前		5週前		6週前	
	第6週		第5週		第4週		第3週		第2週		第1週		第52週	
	定当	状況												
高知県全域	41.63	△	50.60	△	39.94	△	28.75	○	14.25	○	10.21	○	7.08	-
安芸	26.75	○	26.25	○	32.00	△	21.00	○	12.00	○	3.75	-	3.50	-
中央東	37.82	△	34.91	△	36.27	△	24.91	○	8.73	-	8.91	-	3.64	-
高知市	52.06	△	67.44	△	48.88	△	31.00	△	20.56	○	12.81	○	9.63	-
中央西	52.40	△	69.00	△	40.80	△	28.40	○	13.20	○	14.20	○	10.80	○
須崎	37.25	△	38.25	△	21.75	○	13.50	○	9.00	-	11.25	○	7.75	-
幡多	28.88	○	45.38	△	39.63	△	41.25	△	13.63	○	7.00	-	5.88	-

注意報値：○（10以上30未満） 警報値：△（30以上）

学校等における集団発生

※感染症情報収集システム

保健所		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計
休校	第6週	0	0	0	0	1	0	1
	累計	3	0	0	1	2	1	7
学年閉鎖	第6週	0	0	3	1	4	1	9
	累計	10	5	14	4	9	10	52
学級閉鎖	第6週	1	1	14	0	1	1	18
	累計	2	2	50	3	1	5	63

インフルエンザの飛沫感染対策【咳エチケット】

インフルエンザの主な感染経路は咳やくしゃみの際に口から発生される小さな水滴（飛沫）による飛沫感染であることから、感染予防のため以下の咳エチケットに心がけてください。

- 咳・くしゃみが出たらマスクをしましょう。
- 鼻汁・痰などを含んだティッシュはフタつきのゴミ箱に捨てましょう。
- 咳・くしゃみをおさえた手、鼻をかんだ手は直ちに洗いましょう。
- 咳をしている人にマスクの着用をお願いしましょう。
- マスクの装着は説明書を読んで、正しく着用しましょう。

■ 飛沫感染対策ではマスクは重要です。特に感染者がマスクをすることが、感染の拡散を抑える効果が高いと言われています。

- 厚生労働省 「平成28年度今冬のインフルエンザ総合対策について」

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/influenza/index.html>

- 厚生労働省 「平成28年度インフルエンザQ&A」

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou01/qa.html>

○A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎に気を付けて！

幡多で注意報値である4.00を超えています。

定点医療機関からの報告数は第5週の2.33から第6週では2.47と横ばいです。県全域から報告があり、幡多、須崎で増加し、幡多では注意報値を超えています。

定点医療機関からのホット情報では12例の報告があり、うち2例はインフルエンザと溶連菌感染症の同時感染でした。感染症情報収集システム※でも17例の報告があることから、引き続き注意が必要です。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれる細菌を吸い込むことによる飛まつ感染、あるいは、細菌が付着した手で口や鼻に触れることによる接触感染が主な感染経路です。

乳幼児では咽頭炎、年長児や成人、特に妊婦では扁桃炎が現れ重症化することもあるため、うがい、手洗いなどの一般的な予防法を励行しましょう。

○百日咳に気を付けて！

高知市で注意報値である0.1を超えています。

定点医療機関当たりの報告数は第5週の0.00から第6週では0.07です。高知市で増加し注意報値を超えています。

百日咳は、感染力が強く、咳の開始から約3週間は菌の排出があるため、注意が必要です。

特に生後6ヶ月未満の乳児では無呼吸発作等、重篤になる場合もあるので、予防接種をしていない新生児、乳児がいる場合は特に感染に対する注意が必要です。

予防対策は予防接種、うがい、手洗い、咳エチケットです。

感染予防のためにワクチン接種をお勧めします。ワクチンは生後3ヶ月から接種可能なので、かかりつけ医と相談し、出来るだけ早く受けておくことをお勧めします。

○感染性胃腸炎に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第5週の7.17から第6週では6.77と横ばいです。県全域から報告があり、中央西、安芸、中央東で増加しています。

定点医療機関からのホット情報でノロウイルス13例、ロタウイルス1例の報告があります。

また、感染症情報収集システム※でも48例の報告があることから、今後も引き続き注意が必要です。

ノロウイルスによる胃腸炎では、主な症状は吐き気、嘔吐、下痢、発熱、腹痛であり、小児では嘔吐、成人では下痢が多いです。特に乳幼児や高齢者、体力の低下している方は下痢、嘔吐などで脱水症状を起こすことがありますので、早めに医療機関を受診してください。通常は1週間以内に回復しますが、症状消失後も1週間程度、長いときには1ヶ月程度ウイルスの排泄が続くことがあります。

ロタウイルスによる胃腸炎では、嘔吐、下痢、発熱がみられ、乳児ではけいれんを起こすこともあります。感染しても発症しない場合や、軽い風邪のような症状の場合もあります。

ロタウイルスによる感染症の予防対策には予防接種があり、乳幼児を中心に受けることができますので、かかりつけの医療機関にご相談ください（任意接種）。

感染経路は、病原体が付着した手で口に触れることによる感染（接触感染）、汚染された食品を食べることによる感染（経口感染）があります。

予防には手洗いが有効です。帰宅時や調理・食事前、トイレの後には石けんと流水でしっかりと手を洗いましょう。

便や嘔吐物を処理する時は、感染した人の便やおう吐物には直接触れないようにし、使い捨て手袋、マスク、エプロンを着用し、次亜塩素酸ナトリウムまたは、家庭用の次亜塩素酸ナトリウムを含む塩素系漂白剤の使用法を確認したうえで、キッチンペーパーなどを使用して処理しましょう。処理後は石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

調理をする場合には、中心部まで十分に加熱しましょう。

- 厚生労働省 「ノロウイルスに関する Q&A」

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html

- 厚生労働省 「ノロウイルス等の食中毒予防のための適切な手洗い（動画）」

<https://www.youtube.com/watch?v=z7ifN95YVdM&feature=youtu.be>

- 衛生研究所 「高知県ノロウイルス対策マニュアル」

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/norovirus.html>

- 厚生労働省 「ロタウイルスに関する Q&A」

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/Rotavirus/>

○マイコプラズマ肺炎に気を付けて！

基幹定点当たりの報告数は第5週の0.25から第6週では0.63と急増しています。

定点医療機関からのホット情報は2例、感染症情報収集システム※は6例と以前に比べると報告数は減少してはいますが、引き続き注意が必要です。

感染経路は患者の咳のしぶきを吸いこんだり、患者と身近で接触したりすることにより感染すると言われています。保育園や幼稚園、学校、あるいは家庭内等での伝播がみられます。

予防対策としては、手洗いと咳エチケットです。

※ 感染症情報収集システム：県内小中高등학교における疾病別患者数情報システム

☆ダニの感染症（日本紅斑熱・SFTS・つつが虫病）に注意！

日本紅斑熱やSFTS（重症熱性血小板減少症候群）は比較的大型（吸血前で3～4mm）のマダニが、つつが虫病はツツガムシというわずか0.3mmほどのダニの幼虫が媒介する感染症です。

全てのマダニやツツガムシが病原体を持っているわけではありませんが、これらのダニに咬まれないようにすることが感染の予防になりますので、引き続き注意が必要です。

予防するためのワクチン等はありません。マダニやツツガムシは野外に生息しています。

野山や畑、草むらなどに出かけるときは、次のことに注意しましょう。

▲長袖・長ズボンを着用し、シャツの裾はズボンの中に入れ、ズボンの裾は靴下や長靴の中に入れる等、肌の露出を少なくしましょう。

▲マダニ用の忌避剤を使用しましょう。

▲帰宅後は、すぐに入浴してマダニに咬まれていないか確認し、新しい服に着替えましょう。

▲野外から帰った犬や猫はダニが付着している可能性があるため、よく見てあげましょう。

▲吸血中のマダニを見つけたら、無理に引き抜こうとせず、医療機関を受診し処置してもらいましょう。

昨年1月にはSFTSの患者報告もありました。冬場でも注意してください。

発熱等の症状が出たとき

野山に入ってからしばらくして（数日～2週間程度）発熱等の症状が出た場合、医療機関を受診して下さい。また受診の際、発症前に野山に立ち入ったこと（ダニに咬まれたこと）を申し出て下さい。

- 高知県衛生研究所 ダニが媒介する感染症

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2015111600016.html>

- 高知県衛生研究所 マダニによる感染症の注意喚起パンフレットを作成しました。

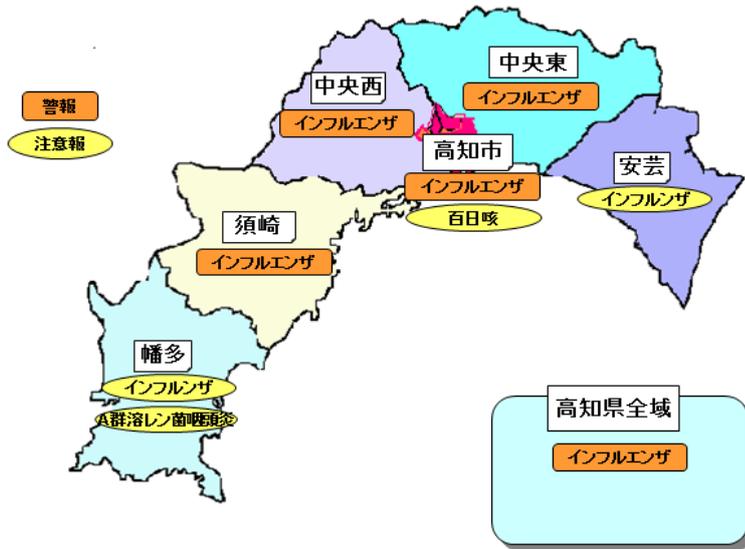
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2016061300063.html>

★県内での感染症発生状況

定点把握感染症（上位疾患） ↑：急増 ↗：増加 →：横ばい ↘：減少 ↓：急減
 6週（2月6日～2月12日）

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
インフルエンザ	↘	41.63	中央東、安芸で増加しています。 県全域と中央西、高知市、中央東、須崎では警報値を超え、幡多と安芸では注意報値を超えています。
感染性胃腸炎	→	6.77	中央西、安芸、中央東で増加しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	→	2.47	幡多、須崎で増加し、幡多では注意報値を超えています。
RSウイルス感染症	↘	0.53	中央西で増加しています。
咽頭結膜熱	→	0.27	高知市で増加しています。

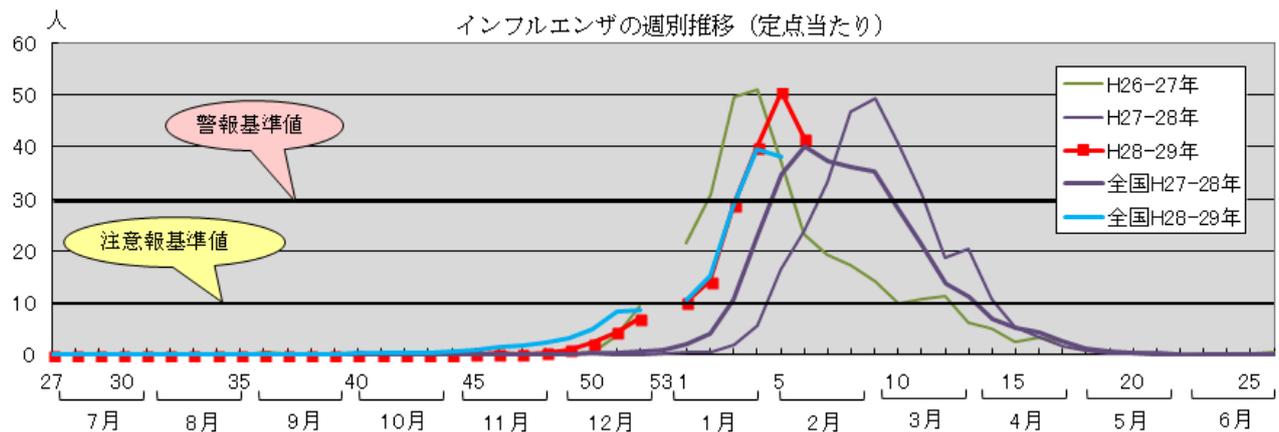
★地域別感染症発生状況



★気を付けて！

○インフルエンザ 第6週：41.63（注意報値：10.00 警報値：30.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり 41.63（前週：50.60）と減少しています。中央東、安芸で増加し、県全域と中央西 52.40（前週：69.00）、高知市 52.06（前週：67.44）、中央東 37.82（前週：34.91）、須崎 37.25（前週：38.25）では警報値を超え、幡多 28.88（前週：45.38）、安芸 26.75（前週：26.25）では注意報値を超えています。



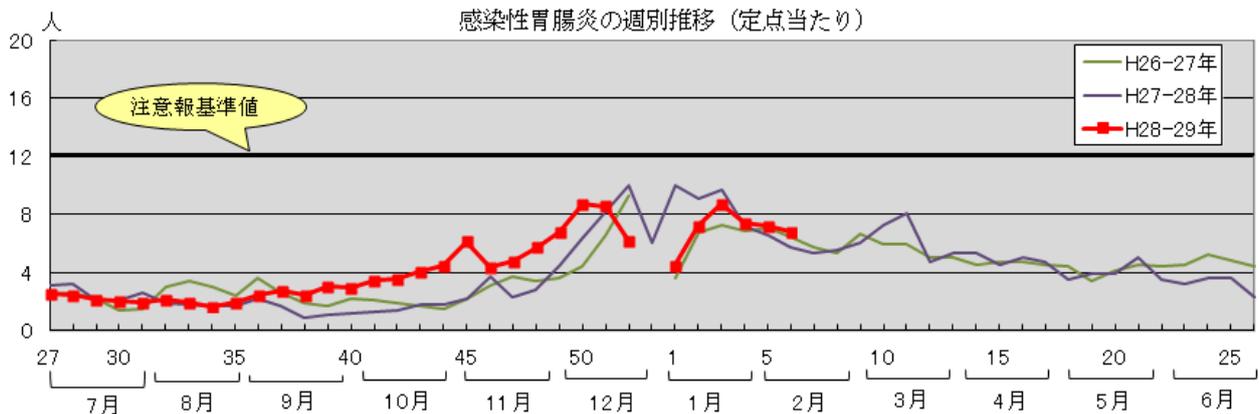
○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 第6週：2.47 (注意報値：4.00 警報値：8.00)

定点医療機関からの報告数は定点当たり 2.47 (前週：2.33) と横ばいです。幡多 5.00 (前週：1.80)、須崎 1.50 (前週：0.00) で増加し、幡多では注意報値を超えています。



○感染性胃腸炎 第6週：6.77 (注意報値：12.00 警報値：20.00)

定点医療機関からの報告数は定点当たり 6.77 (前週：7.17) と横ばいです。中央西 9.67 (前週：7.67)、安芸 8.00 (前週：6.50)、中央東 7.71 (前週：7.43) で増加しています。



※グラフの途切れについて

H27-H28年は第53週までであるため、グラフ横軸に第53週を挿入しています。

そのため、H26-H27年とH28-H29年のグラフ第52週～第1週間に途切れが生じています。

★病原体検出情報

受付週	臨床診断名	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
6	インフルエンザ	4	女	須崎	Influenza virus A H1pdm09
6	インフルエンザ	54	女	須崎	Influenza virus A H3 NT
6	インフルエンザ	9	女	須崎	Influenza virus A H3 NT
6	インフルエンザ	10	男	須崎	Influenza virus A H3 NT

前週以前に搬入

受付週	臨床診断名	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
5	-	2	女	幡多	Human herpes virus 7

受付週	臨床診断名	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
3	不明発疹症	10ヶ月	男	須崎	Cytomegalovirus

★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内容	保健所
2類	結核	1	8	70歳代男	中央東

★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情報
中央東	あけぼのクリニック	インフルエンザ A型 43例、B型 1例
	高知大学医学部附属病院小児科	(病棟) ロタウイルス腸炎 1例 (6ヶ月男)
	野市中央病院小児科	インフルエンザ 10例 (全て A型) ワクチン済み: 4人、ワクチン未: 6人
	早明浦病院小児科	ノロウイルス感染性胃腸炎 2例 (1歳2人) インフルエンザ A型 9例 (1歳から15歳)
高知市	けら小児科・アレルギー科	アデノウイルス扁桃炎 2例 (1歳、3歳)
		ノロウイルス腸炎 5例 (1歳4人、5歳1人)
		マイコプラズマ肺炎 1例 (12歳)
		百日咳 1例 (9歳男) PT-IgG 160EU/mL以上
	高知医療センター小児科	RSウイルス感染症 1例 (10ヶ月男)
		アデノウイルス 1例 (1歳女)
		ヒトメタニューモウイルス 1例 (3歳女)
	三愛病院小児科	インフルエンザウイルス 8例 (1歳男女、7歳男、9歳男、10歳女、11歳女、15歳女、18歳男)
		EBウイルス感染症 1例 (3歳男) アデノウイルス感染症 1例 (1歳男)
	福井小児科・内科・循環器科	1歳の女兒 インフルエンザ A と B 溶連菌の重感染
		2歳男児 ヒトメタニューモウイルス肺炎
		インフルエンザ A型と溶連菌感染症の合併 1例 (2歳女)
		インフルエンザ A型 61例 B型 0例 ワクチン接種済 14例
溶連菌感染症 12例 伝染性紅斑 2例 (3歳男、8歳女)		
細木病院小児科	ノロ 5例 (1歳女、2歳男、3歳女、6歳女、13歳男)	
中央西	石黒小児科	インフルエンザ A型 76例
	くぼたこどもクリニック	インフルエンザ A型 土佐市 (10歳女)
	日高クリニック	マイコプラズマ気管支炎 1例 (12歳男)
須崎	もりはた小児科	滲出性扁桃炎 (アデノ) 1例 (5歳女)
		インフルエンザ 59例 (A型 58例、B型 1例)
幡多	さたけ小児科	インフルエンザ 71例 全て A型
	幡多けんみん病院小児科	hMPV 陽性 1例 (1歳男)
		ノロウイルス陽性 1例 (2歳男)

★全国情報

第4号（1月23日～1月29日）

1類感染症：報告なし

2類感染症：結核292例

3類感染症：細菌性赤痢6例、腸管出血性大腸菌感染症15例

4類感染症：E型肝炎5例、A型肝炎3例、つつが虫病5例、デング熱3例、マラリア1例、
レジオネラ症10例

5類感染症：アメーバ赤痢16例、ウイルス性肝炎3例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症17例、
急性脳炎15例、クロイツフェルト・ヤコブ病2例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症9例、
後天性免疫不全症候群17例、ジアルジア症1例、侵襲性インフルエンザ菌感染症2例、
侵襲性髄膜炎菌感染症1例、侵襲性肺炎球菌感染症47例、水痘（入院例に限る）3例、
梅毒68例、播種性クリプトコックス症2例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例

報告遅れ：細菌性赤痢1例、E型肝炎1例、エキノコックス症2例、つつが虫病2例、マラリア1例、
レジオネラ症7例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症12例、急性脳炎7例、
劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例、水痘（入院例に限る）2例、梅毒26例、
播種性クリプトコックス症2例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例

高知県感染症情報(59定点医療機関)

第6週 平成29年2月6日(月)～平成29年2月12日(日)

高知県衛生研究所

定点名 疾病名	保健所	第6週						計	前週	全国(5週)	高知県(6週末累計)		全国(5週末累計)
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多				H29/1/2～H29/2/12	H29/1/2～H29/2/5	
インフルエンザ		107	416	833	262	149	231	1,998 (41.63)	2,429 (50.60)	189,231 (38.14)	8,898 (185.38)	655,320 (132.25)	
小児科	咽頭結核熱			4			4	8 (0.27)	7 (0.23)	1,148 (0.36)	29 (0.97)	4,965 (1.57)	
	八群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1	2	37	6	3	25	74 (2.47)	70 (2.33)	7,335 (2.32)	305 (10.17)	28,400 (8.99)	
	感染性胃腸炎	16	54	57	29	9	38	203 (6.77)	215 (7.17)	18,366 (5.80)	1,253 (41.77)	97,963 (31.00)	
	水痘		1	5				6 (0.20)	10 (0.33)	901 (0.28)	88 (2.93)	6,255 (1.98)	
	手足口病			1				1 (0.03)	1 (0.03)	508 (0.16)	12 (0.40)	2,695 (0.85)	
	伝染性紅斑		1	3			1	5 (0.17)	4 (0.13)	265 (0.08)	30 (1.00)	1,487 (0.47)	
	突発性発疹		2	1	1	1		5 (0.17)	8 (0.27)	1,158 (0.37)	42 (1.40)	5,651 (1.79)	
	百日咳			2				2 (0.07)	()	29 (0.01)	6 (0.20)	122 (0.04)	
	ヘルパンギーナ							()	()	67 (0.02)	()	437 (0.14)	
	流行性耳下腺炎	1	2	3			1	7 (0.23)	9 (0.30)	2,074 (0.66)	49 (1.63)	11,148 (3.53)	
	RSウイルス感染症		3	5	5		3	16 (0.53)	20 (0.67)	1,047 (0.33)	118 (3.93)	5,970 (1.89)	
	眼科	急性出血性結膜炎							()	()	2 ()	()	32 (0.05)
		流行性角結膜炎							()	1 (0.33)	327 (0.47)	5 (1.67)	1,866 (2.70)
基幹	細菌性髄膜炎							()	()	16 (0.03)	1 (0.13)	46 (0.10)	
	無菌性髄膜炎							()	()	11 (0.02)	()	73 (0.15)	
	マイコプラズマ肺炎		1	1			3	5 (0.63)	2 (0.25)	232 (0.49)	27 (3.38)	1,450 (3.06)	
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)							()	()	9 (0.02)	2 (0.25)	39 (0.08)	
	感染性胃腸炎		1					1 (0.13)	1 (0.13)	38 (0.08)	5 (0.63)	168 (0.35)	
計 (小児科定点当たり人数)	125 (35.75)	483 (47.11)	952 (62.76)	303 (66.07)	162 (43.75)	306 (43.28)	2,331 (52.54)			222,764	10,870 (249.78)	824,087	
前週 (小児科定点当たり人数)	121 (34.25)	453 (44.63)	1,214 (79.43)	382 (81.33)	169 (46.25)	438 (60.38)		2,777 (62.06)					

注 ()は定点当たり人数。

高知県感染症情報(59定点医療機関) 定点当たり人数

定点名 疾病名	保健所	第6週						計	前週	全国(5週)	高知県(6週末累計)		全国(5週末累計)
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多				H29/1/2～H29/2/12	H29/1/2～H29/2/5	
インフルエンザ		26.75	37.82	52.06	52.40	37.25	28.88	41.63	50.60	38.14	185.38	132.25	
小児科	咽頭結核熱			0.36			0.80	0.27	0.23	0.36	0.97	1.57	
	八群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.50	0.29	3.36	2.00	1.50	5.00	2.47	2.33	2.32	10.17	8.99	
	感染性胃腸炎	8.00	7.71	5.18	9.67	4.50	7.60	6.77	7.17	5.80	41.77	31.00	
	水痘		0.14	0.45				0.20	0.33	0.28	2.93	1.98	
	手足口病			0.09				0.03	0.03	0.16	0.40	0.85	
	伝染性紅斑		0.14	0.27			0.20	0.17	0.13	0.08	1.00	0.47	
	突発性発疹		0.29	0.09	0.33	0.50		0.17	0.27	0.37	1.40	1.79	
	百日咳			0.18				0.07		0.01	0.20	0.04	
	ヘルパンギーナ									0.02		0.14	
	流行性耳下腺炎	0.50	0.29	0.27			0.20	0.23	0.30	0.66	1.63	3.53	
	RSウイルス感染症		0.43	0.45	1.67		0.60	0.53	0.67	0.33	3.93	1.89	
	眼科	急性出血性結膜炎											0.05
		流行性角結膜炎								0.33	0.47	1.67	2.70
基幹	細菌性髄膜炎									0.03	0.13	0.10	
	無菌性髄膜炎									0.02		0.15	
	マイコプラズマ肺炎		1.00	0.20			3.00	0.63	0.25	0.49	3.38	3.06	
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)									0.02	0.25	0.08	
	感染性胃腸炎		1.00					0.13	0.13	0.08	0.63	0.35	
計 (小児科定点当たり人数)	35.75	47.11	62.76	66.07	43.75	43.28	52.54			249.78			
前週 (小児科定点当たり人数)	34.25	44.63	79.43	81.33	46.25	60.38		62.06					

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生研究所）

〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎2階）

TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869